会議議事録

|  |  |
| --- | --- |
| 事業名 | 平成３０年度「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」Ⅰ．教職員の資質能力向上の推進　（ⅱ）教職員研修プログラムの構築事業 |
| 代表校 | 一般社団法人全国専門学校教育研究会 |

|  |  |
| --- | --- |
| 会議名 | 第2回事業推進委員会 |
| 開催日時 | 2018年9月26日 15時〜17時 |
| 場所 | 東京ガーデンパレス　3F 桂 |
| 出席者 | 委員：大城圭永、岡村慎一、植上一希、佐藤昭宏、福田稔、山根大介、高岡信吾、泉田優請負業者：飯塚正成 |
| 議題等 | ①学習評価プログラム開発について◆現在KBC学園3回、麻生塾2回、YICグループ2回の調査を終了している。【現状の調査結果】（植上、佐藤）・人材像設定→能力設定→教育内容編成→教育効果の測定（評価）→教育・授業改善という構造を認識してもらう必要がある。・この全体像の認識をしてもらい、その中での「評価」や授業改善を考える。・視察結果として能力設定から教育内容編成をする部分について特に難しいと感じている。・時系列のカリキュラムマップを作成するとともにコア科目の重要性を確認する必要がある。・学科・学校のカリキュラム等と関連させて、個々の授業改善につなげていく必要がある。・ここから企業等も対象として、調査を継続する。・各チームともに追加調査を２～３回程度予定している。②ICT活用研修プログラム開発・アンケート調査は回収及び数値入力済み。回収率は教務部長９５％、学科長８４％。今後分析へと移る。・アンケート結果から聞き取り対象校を選定しWGリーダーへ報告。・実証講座は、研修の大枠として①事前教材自習②対面研修③事後教材自習④授業実践⑤対面研修（リフレクション）の5段階を想定し検討している・事前教材自習のモチベーションを如何にして高めるのかがポイントである。・対面研修の環境設定をどの様にするのか。時間的、物理的な制限を考える必要がある。・対面研修の動画作成テーマを専門領域と共通領域のどちらにするのか考える必要がある。・リフレクションを実施するかどうかも含め、分野を分けた評価等、評価のありかたを検討する必要がある。・実施期間は12月21～23日の間で調整。③今後のスケジュール・11月7日　15:00～17:00　中野サンプラザ |

以上